



〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部／大学院／文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市電久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

中高
文科省より指定!

「スーパーグローバルハイスクール(SGH)アンシエイト」進行中

本校は平成27年度、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)アンシエイトの指定を受けました。なお本校は、同省よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定も受けており、国際教育と理数教育2つの分野での指定を受けているのは、都内女子校では本校のみです。今回は、本校SGHアンシエイトの概要と、実際の活動についてレポートします。

開発実践」で、「世界がキャンパス」と考える本校SGHの学びでは、次の4つの能力を養成します。

- ★目の前にある事象を時間軸と空間軸の複眼的視点をもって把握できる能力。
- ★「国境」を軽やかに超えることができる行動力。
- ★異文化への理解と尊敬を基に、多様性を築きむことができる包容力。
- ★対話を通してお互いの関係を信頼関係に高めることのできるコミュニケーション力。

SGHは、高等学校等におけるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。グローバル・リーダーとは、単に英語を話す人間ではなく、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できる人材のことを意味します。

その育成に役立つ教育をできる女性リーダー教育の

開発し、実践に取り組む高等学校等が「SGHアンシエイト」で、SGH指定校を形成。それぞれの学校を取り組みに関する情報を共有するとともに、それを発信する活動を行います。

本校のSGH構想の表題は「『空間力』をもって、グローバル社会をデザインできる女性リーダー教育の



国際社会で活躍する女性職員の話聞いた高1の生徒たち(外務省にて)

女性が多く、最も職員数が少ない省。最低でも2年間海外で研修。国際交流に本文化を紹介できるよう

興味があるなら、習字や着物の着付け、料理など日々の研修で学べること。「現地の暮らし」「食事や国民性」などについて質問。国際社会で活躍する女性職員からチマのアドバイスを受けることができました。

また、別のグループは、世界各地に取材拠点を持つ新聞社を訪れ、模擬記者会見や、タブレットを利用して取材に出る疑似体験を通して、記事の作成に

に」という話を聞きました。生徒たちは「2年間の研修で学べること」「現地の暮らし」「食事や国民性」などについて質問。国際社会で活躍する女性職員からチマのアドバイスを受けることができました。

また、別のグループは、世界各地に取材拠点を持つ新聞社を訪れ、模擬記者会見や、タブレットを利用して取材に出る疑似体験を通して、記事の作成に

SGHの重要な拠点として「国際塾」がありますが、詳細は次号に掲載します。

また、別のグループは、世界各地に取材拠点を持つ新聞社を訪れ、模擬記者会見や、タブレットを利用して取材に出る疑似体験を通して、記事の作成に

SGHの重要な拠点として「国際塾」がありますが、詳細は次号に掲載します。

また、別のグループは、世界各地に取材拠点を持つ新聞社を訪れ、模擬記者会見や、タブレットを利用して取材に出る疑似体験を通して、記事の作成に

中高 PCCPと本校の架け橋
ゴーン・ペッツワン氏が旭日中経章を受章

タイ教育省顧問のゴーン・ペッツワン氏(モンクット王ラカバン工科大学元学長)が、今年の春の外国人叙勲で旭日中経章を受章されました。

同氏は、タイの科学教育発展のために尽力され、功績のひとつに、12校のフリンセス・チュラポーン・サイエンス高校の力添えを頂戴し、本校から記念の盾を贈呈しました。

現在同氏は、立法議会の議員として、教育改革に尽力されています。

本校から贈られた盾を持つ(左から)佐渡島大使、ゴーン氏、松本さん、職員のポチャーニーさん(写真提供=在タイ日本国大使館)

本校は毎年200名ほどの学生を海外留学に派遣しています。全学部生の45パーセントです。

留学プログラムは、主に春と夏の二つの時期に出発しており、それに向けて開催する留学説明会への出席者数を含めても、この数字は2桁には届きません。つまり、両キャンパスGSIGグループがお世話をする学生は、話をする学生は、本学学生のごく一部であり、市場開拓の余地がたくさん残されています。

さて本学では、GCIプログラムに代表されるように、海外志向、留学志向の学生をひとりでも増やし、育てることを大きな柱としています。

当グループの位置するS館3階には、LICやチャット・ラウンジ、ビデオ視聴室、またGCIコーナーなどがあり、常時学生でにぎわっています。

ここに集う学生は、留学経験者を含め、海外や留学への関心のある人たちと言えます。

一方、このフロアに足を運んだことのない学生も少なくないはずで、留学への関心をもっともらうことも、私たちの役目のひとつです。

そこで、6月から7月に掛けての1週間を通して昼休みに、最も学生が集まる場所であるラウンジにおいて、留学フェアと銘打って、説明会を提供しました。

残念ながら、食事と談笑に忙しい学生の大きな関心を引くことはできませんでしたが、10月7日(水)から15日(木)まで、再度実施することになっています。

留学プログラムの募集が始まり、応募者が募り、参加者が決まると、オリエンテーションなどを通して、参加学生との距離が縮まります。引率などで同行すると、これにさらに縮まり、それぞれの個性や嗜好がよく見えてきます。一方、同様に、こちらの素性も知られることになり、親しくなったからと言って、気を抜く訳にはいきません。

とはいえ、学生との親交は、職員にとって日ごろの業務に励む大きな動機づけになっています。

今後は幅広く、留学とは直接関わりのない行事や委員会活動なども通じて、留学に関心をもち学生をひとりでも増やすよう、工夫して参ります。

みなさんのご支援をお願いいたします。

足立 雄啓

大学 映画『瞬間少女』が映画祭でグランプリ
～経営学部学生が制作協力・配給～

経営学部の公野研究室が制作協力・配給を行った映画『瞬間少女』(監督・脚本:清水健斗/公開日:2013年8月31日)が、株式会社ドリームキッド主催の国内映画祭「第2回 World gate Film Festival」にて、長編部門でグランプリを受賞しました。

同映画は、余命わずかな二人の少女・遥華と亜希が入院先の病院を抜け出し、お互いを労わりながらこれまでできなかった様々なことに挑戦し、生きていることにより得られる幸せな瞬間を心に留めていくヒューマンドラマ。主演の片岡華奈子(現在は芸名改め矢沢華奈子)と小室ゆらのリアルで透明感ある初々しい演技が「生きている瞬間」を鮮やかに表現した心に残る作品です。

公野研究室は、映画、舞台、アニメーション、コミック、玩具、キャラクター等のコンテンツを中心に、様々な企業との連携により、そのコンテンツのメカニズムと市場性を検証しています。公野勉教授は、円谷プロダクション、東北新社、ギャガ・コミュニケーションズ、日活などで、数多くの映画制作・配給を手掛けてきたプロフェッショナルで、清水氏が相談に訪れたことで同研究室の学生が作品制作に携わるプロジェクトがスタート。6名の学生が主に制作と配給を担当しました。

制作では、キャスティングをはじめ、ロケーション撮影、劇場予告の編集など全体的なサポートに携わりました。配給



同作品のポスター、片岡(矢沢)上と小室

では、上映劇場の選定や営業、宣伝プランニングなどを手掛け、東京の池袋シネマ・ロサで2013年8月31日から9月13日まで上映され、初日の舞台挨拶はほぼ満員で始まり、2週間の興行で約1,000人の来場がありました。

なお、同作品は、2015年9月27日に米国ロサンゼルスで開催された映画祭「LA Eiga-Fest 2015」でも上演され、好評を博しました。



本校から贈られた盾を持つ(左から)佐渡島大使、ゴーン氏、松本さん、職員のポチャーニーさん(写真提供=在タイ日本国大使館)

本校から贈られた盾を持つ(左から)佐渡島大使、ゴーン氏、松本さん、職員のポチャーニーさん(写真提供=在タイ日本国大使館)

本校から贈られた盾を持つ(左から)佐渡島大使、ゴーン氏、松本さん、職員のポチャーニーさん(写真提供=在タイ日本国大使館)

Green Spirits

留学しましょう

本校は毎年200名ほどの学生を海外留学に派遣しています。全学部生の45パーセントです。

留学プログラムは、主に春と夏の二つの時期に出発しており、それに向けて開催する留学説明会への出席者数を含めても、この数字は2桁には届きません。つまり、両キャンパスGSIGグループがお世話をする学生は、話をする学生は、本学学生のごく一部であり、市場開拓の余地がたくさん残されています。

さて本学では、GCIプログラムに代表されるように、海外志向、留学志向の学生をひとりでも増やし、育てることを大きな柱としています。

当グループの位置するS館3階には、LICやチャット・ラウンジ、ビデオ視聴室、またGCIコーナーなどがあり、常時学生でにぎわっています。

ここに集う学生は、留学経験者を含め、海外や留学への関心のある人たちと言えます。

一方、このフロアに足を運んだことのない学生も少なくないはずで、留学への関心をもっともらうことも、私たちの役目のひとつです。

そこで、6月から7月に掛けての1週間を通して昼休みに、最も学生が集まる場所であるラウンジにおいて、留学フェアと銘打って、説明会を提供しました。

残念ながら、食事と談笑に忙しい学生の大きな関心を引くことはできませんでしたが、10月7日(水)から15日(木)まで、再度実施することになっています。

留学プログラムの募集が始まり、応募者が募り、参加者が決まると、オリエンテーションなどを通して、参加学生との距離が縮まります。引率などで同行すると、これにさらに縮まり、それぞれの個性や嗜好がよく見えてきます。一方、同様に、こちらの素性も知られることになり、親しくなったからと言って、気を抜く訳にはいきません。

とはいえ、学生との親交は、職員にとって日ごろの業務に励む大きな動機づけになっています。

今後は幅広く、留学とは直接関わりのない行事や委員会活動なども通じて、留学に関心をもち学生をひとりでも増やすよう、工夫して参ります。

みなさんのご支援をお願いいたします。

留学しましょう

特集 大学 「国際連携教育プログラム」

GSI (Global Studies Institute) グループでは、交換留学、語学留学、海外フィールドワークなど、本学の学生を派遣するプログラムだけではなく、海外協定校からの学生を受け入れるプログラムも担当しています。その代表的なものは「国際連携教育プログラム」です。今回は、現在、本学に留学中の学生たちの様子を特集します。(ふみ野GSIは別号掲載。)

5カ国21名の留学生に心を込めて対応



工藤学長(前列左から)人目を囲む21名の留学生と関係者

Driningで行われました。工藤秀機学長、米田から留学生を引率されたベネツ先生・ベネティック(セント・ベネティク)のスピーチの後、各留学生在自紹介を行いました。今年度は、本学が協定を結ぶ国・マレーシア・ネパール・ブルガリア・トルコの大学から合計21名の留学生が参加しています。本郷キャンパス内外で4カ月を日本の政治経済や文化・宗教を幅広い分野を学びます。

9月5日から7日まで、本学の軽井沢センターハウスを拠点とした研修旅行。浅間観光ミュージアムを訪れた際は、弓矢の使い方や小枝を擦ると火をおこす体験をしました。この体験を通して、留学生同士のコミュニケーションが密になり、良いチームワークが期待できるようになりました。留学生からは「都会から離れたリゾート地で仲間意識を育むことができた」「浅間観光ミュージアムでは貴重な土器の見学に加えて、勾玉ネックレス作成や縄文火おこしなど自分で体験することができて楽しかった」という感想が聞かれました。

9月1日からは、いよいよ授業がスタート! 授業は学内のみならず、地域や各種外部機関にもわたり、弓矢で縄文時代の狩猟体験を行います。9月1日からは、いよいよ授業がスタート! 授業は学内のみならず、地域や各種外部機関にもわたり、弓矢で縄文時代の狩猟体験を行います。



いなせな姿で立派な担ぎ手

根津神社例大祭で神輿担ぎ 根津神社例大祭で神輿担ぎ。根津神社例大祭で神輿担ぎ。根津神社例大祭で神輿担ぎ。根津神社例大祭で神輿担ぎ。根津神社例大祭で神輿担ぎ。

軽井沢研修旅行でコミュニケーション ミニケーション。軽井沢研修旅行でコミュニケーション。軽井沢研修旅行でコミュニケーション。軽井沢研修旅行でコミュニケーション。軽井沢研修旅行でコミュニケーション。

「文女祭」で中高生の活躍に触れる 「文女祭」で中高生の活躍に触れる。文女祭で中高生の活躍に触れる。文女祭で中高生の活躍に触れる。文女祭で中高生の活躍に触れる。

学生による歓迎パーティを謳歌 学生による歓迎パーティを謳歌。学生による歓迎パーティを謳歌。学生による歓迎パーティを謳歌。学生による歓迎パーティを謳歌。

バンドの演奏もあり、盛りだくさんの内容で大変楽しめました。という感想が聞かれました。バンドの演奏もあり、盛りだくさんの内容で大変楽しめました。という感想が聞かれました。

中高 卒業生の集いに60名 中高 卒業生の集いに60名。中高 卒業生の集いに60名。中高 卒業生の集いに60名。中高 卒業生の集いに60名。



懐かしい島田学園長(奥中央)の挨拶に耳を傾ける卒業生

同プログラムは、交換留学 結び、本学の国際化が促進 学生が本学で英語での授業 された。本郷キャンパス 3階には、第一回実 施時の写真が埋め込まれた 銘板が設置されています。

防火センターで 防災体験 防火センターで防災体験。防火センターで防災体験。防火センターで防災体験。防火センターで防災体験。

御魂入れの儀で神 秘体験 御魂入れの儀で神秘体験。御魂入れの儀で神秘体験。御魂入れの儀で神秘体験。御魂入れの儀で神秘体験。

「文女祭」で中高 生の活躍に触れる 「文女祭」で中高生の活躍に触れる。文女祭で中高生の活躍に触れる。文女祭で中高生の活躍に触れる。



北区防災センター(地震の 科学館)を訪ね、実際の地 震の揺れや、煙からの避 難、消火器を使った消火な どを実験しました。留學 生からは「家の人生で 一度も地震を体験したこ とがなかったので勉強になっ た」「様々なタイプの災害 に対して、どのように対処し て生き延びるか学ぶことが できた」という感想が聞か れました。

宮本町の提灯を掲げて 周回からの注目を浴びて 神輿担ぎ 宮本町の提灯を掲げて周回からの注目を浴びて神輿担ぎ。宮本町の提灯を掲げて周回からの注目を浴びて神輿担ぎ。

各教室の展示のテーマは、 自分の围(似通っているも のもあり、そうではないユ ニクなものもありました。 留學生の文京学院ライフ が爽やかなものであるよ う、在學生の皆さん、応援 しましょう!

大学 環境教育研究センター 「まなびとあそびのキャンパス」大盛況!

幼児から小学校6年生 までを対象にした「まな びとあそびのキャンパス」 (主催:環境教育研究セン ター)が8月1日、ふじみ野キャンパスで開かれま した。 テーマは、「大学におに いさんとおねえさんあそ ぼう」。当日は、オープン キャンパスも同時開催。柄 田毅同センター長、人間学 部准教授はじめ、学内に トのメンバー一同がアッ プの舞台に乗り、大勢の 来校者を前に元気に出演 式!

- ①「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! ②「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! ③「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! ④「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! ⑤「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! ⑥「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! ⑦「まなびとあそびのキャンパス」大盛況!



「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! 「まなびとあそびのキャンパス」大盛況! 「まなびとあそびのキャンパス」大盛況!

高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り 28

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」で学ぶ

都内女子校で唯一、文部科学省からSSHの指定を受けている本校では、生徒たちが日常の研究を通して得た数理知識を駆使し、高度な発表にチャレンジしています。



SSH4校の生徒たち 女性リーダーと共に (中列左から4人目が本校の石田さん、5人目が宮崎さん)

8月28・29日、品川のグランドプリンスホテル高輪・新高輪で「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム(WAW! 2015)」が開催されました。同シンポジウムは日本政府の最重要課題の一つである「女性が輝く社会」を国内外で実現していくための取組みの一環として開催され、今回2回目を迎えました。約40カ国、8国際機関から約150名の女性リーダーなどが参加。日本からは、安倍晋三内閣総理大臣、岸田文雄外務大臣、有村治子女性活躍担当大臣、加藤勝信内閣官房副長官、安倍昭恵総理夫人他が出席しました。特別に、SSH4校から14名の高校生が招待され、本校からも石田壘さんと(1梅)と宮崎桜子さんが参加しました。

石田「スペシャルセッションでは、今の女性の立場や、今後理系分野で女性が活躍していくにはどうしたら良いかなど、現在の課題について話があり、現状を知ることができた。私は、なぜ理系に女性が少ないのか不思議だった。夢に向けて頑張ろうと改めて思った」



大学 文の京カレッジコンサート 本学吹奏楽部が活躍

「文の京カレッジコンサート」が9月5日、文京ビックホール小ホールで開かれ、本学吹奏楽部が出演。本学OBで現在、岩倉高等学校の教員・吹奏楽部の顧問の山田裕介さんの軽快な指揮で、ミュージカル「レ・ミゼラブル」より「夢やぶれて」と「川の流れるように」を演奏し、会場から大きな拍手が送られました。



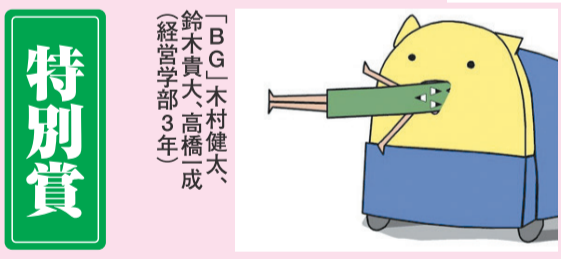
本学吹奏楽部と応援メンバー

文京コンテンツアワード2015 入選作品発表!

第4回「文京コンテンツアワード2015」が8月1日、Bs cafeで開催され、学生、企業関係者、卒業生などが来場し、会場が賑わいました。同コンテンツでは、本学学生以外にも高校生以上の学生を対象に、商品化・ビジネス化を前提としたコンテンツ作品を募集。厳正なる選考の結果、以下の8作品が入選しました。



「ゴミ置き場で」 石川健太(経営学部2年)



「BG」木村健太、鈴木貴大、高橋一成(経営学部3年)



「ホーリーモンスター」中田遥、佐藤真由美、遠藤翔月(経営学部3年)



「スーパージョナサン」馬場直人、林直樹、青木一泰(経営学部3年)



「猫の冒険」 中村美香(経営学部2年)



「ももたろう」 加藤葵(経営学部2年)



「Where is 赤ずきん」 麻生小百合(経営学部2年)



「日常」 桑子涵(経営学部2年)

輝く卒業生 理学療法学科OG 百瀬友美さん スーダンで活動

本学の卒業生は、学生時代に体得した「自立と共生」の精神で、豊かなコミュニケーション力を駆使し、国内外の至る所で活躍しています。今号より適時、その輝く姿を報告します。平成22年3月に保健医療技術学部理学療法学科を卒業した百瀬友美さんが、青年海外協力隊の一員として2年間、スーダンで理学療法士として活躍しました。同国での活動の様子が、「理学療法士 in スーダン～青年海外協力隊の現場から～」をタイトルに9月1日、動画配信されました(JICA制作)。https://www.youtube.com/watch?v=ZXzvZvvisGU 百瀬さんは、National Authority for Prosthetics and Orthotics(国立義肢装具支援機構/通称ナボ)で、全国から来る患者に、義手・義足などの提供、リハビリ(装着・歩行訓練)のサポート活動を行っています。アフリカ大陸を南北に流れるナイル川の中心に位置し、気温は最大で50℃に達する過酷な環境で、百瀬さんは常に「幸せとは何か？」を問い続けてきました。上司は百瀬さんを「素晴らしいコミュニケーション力で、すべての人と信頼関係を築いて活動している」と評価。同僚も「休むことなく飛び回っている。スーダン人と結婚して、ここに残ってほしい」と熱望するほど深い関係を構築。百瀬さんもまた「スーダンは第2の故郷。また戻ってきたい」と希望しています。

新書コーナー

★新版「健康食品の基礎知識」 芝 紀代子(本学名誉教授) 編著/金森きよ子(臨床検査学科准教授) ほか著/榊じほう刊(2015年9月) 3,240円(税込)

2015年4月から新たに機能性表示食品制度がスタートし、保健機能食品市場は活況を呈していますが、健康食品は、摂取を間違えると人体に被害を及ぼします。本書は、食品や栄養に関する知識、疾患と栄養、食品と医薬品との相互作用、食品衛生など、多方向からアプローチしながら健康食品を正しく理解するための正統派テキストです。

